

市民学コース 富士見の歴史講座

第3回

南畑のある農民の 生き方からたどる 近隣市とのつながり

日時 11月15日 10:00～11:50
会場 鶴瀬公民館第3集会室
講師 早坂 廣人氏 難波田城資料館
受講者数 18人



1. 渋谷定輔について

渋谷定輔は南畑砂原で1905年に生まれ～1989年東京で亡くなる。
日露戦争中に誕生。

定輔の名前は父親が秋山定輔（大衆紙二六新報の創業者）と直談判し名づけたという。生家は、父親が分家をした自作兼小作農。意欲的に農業経営に取り組んだ。

尋常小学校で優秀な成績であったが、中学校や師範学校には進学させてもらえなかった。その後、高等小学校を修了。

同年の中等教育機関への進学率（全国）は男子20%、女子12%。
定輔の家は、村内で10軒程度の稀な新聞購読者だったので、定輔は尋常小学校2年から新聞を読んだ。

のち15歳で大正9（1920）年に日本社会主義同盟に参加しようとした。
22歳で独立するために家出をしたが連れ戻される。

2. 小作争議

22 年 12 月、小作料軽減を求めて「南畑小作争議」が始まる。
翌春、村内地主との交渉は解決したが、志木町の大地主の西川武一郎（通称
にしぶ

西武）は応じなかったために、小作地不耕作で対抗、翌春、小作人組合の勝
利で解決した。この間、細井和喜蔵や土田 杏^{きょうそん}村と知り合う。

争議後、自由詩による豊かさに遠い農家の若者の心情を描いた。「野良に叫ぶ」
自由詩でリズム感があり、農民文学として評価された。

1925 年 5 月 1 日から日記を書き始め翌年大みそかまで 20 カ月が記録をさ
れた。



3. 記録としての農民哀史

渋谷定輔の「農民哀史」は、大正末期の農村の実情と農民運動の実情を記
録した作品として高く評価されてきた。

当時の日記を原本とするが、そのままの活字化ではなく文学作品として評
価されている。

また日常生活や定例的な行事が記録されており近代生活史として活用され
てきた。（駒木敦子 2005 年）

この講義では「交通」の記録を取り上げる。

農民哀史の空間

- ・別紙舞台地図
- ・家 耕地（田、ソトノ、野方）
- ・近所 親族
- ・学校 役場 （京都在住の土田杏村、ロシア／ウクライナ詩人のシェフチェンコ）

農民哀史の登場人物 7 人の紹介

土田杏村、下中弥三郎、細井和喜蔵、桑原政寿、三上吉之助、吉原平五郎
渋谷長治 *土田杏村が平凡社「世界美術全集」で縄文について紹介

資料・人物略歴 参照

交通・通信（個別）・マス・メディア広報

村の明かりと街の明かり 都市と農村の格差が浮かび上がる。

別表 「農民哀史」にみる大正末・昭和初の灯り

4. デモクラシーの峠

定輔が少年・青年期を送った大正時代は大衆の支持に基づく議会制民主主義が発達した（大正デモクラシー）。大正 14（1925）年に投票権が男性のみの普通選挙法が成立し頂点を迎えた。

一方、格差が広がり社会改革の運動が盛んになり普通選挙法とともに治安維持法も成立し。世界恐慌、昭和の金融恐慌でますます矛盾が高まった。

5. その後の渋谷定輔

農民哀史のもととなった日記は昭和元年大みそかで終わる。

定輔と農民自治会運動が南畑村で理解者を増やしていった様子が記録に残っている。それは農民運動中心の生活への転換。

・一日だけの兵役 出頭し軍服を着たが除隊、軍服姿の写真が残っている。

福島県出身の黎子と結婚、その後昭和 9（1934）年に黎子が早世した。

翌年から秋田県日景温泉を拠点に「温泉厚生運動」に取り組む。

治安維持法違反で逮捕・起訴を挟んで、大政翼賛会にも関わりながら国民を健康推進の「温泉厚生運動」に取り組み続けた。記述はないが資料は残した。

戦後は、生協運動など組織人として生活した。

昭和 39（1964）年に「野良に叫ぶ」が復刊、昭和 45（1970）年についに「農民哀史」

が刊行。平凡社の下村弥三郎が生前の約束を果たしてくれた。

6. 富士見での活動と考古館

「農民哀史」の読書会が鶴瀬団地で主婦を中心に始まり、住民運動にも関わった。

昭和48（1973）年、新旧住民の協力のより老人福祉センターで、農民小作争議50周年を老人福祉センターびん沼荘で開催された。

昭和50（1975）年に定輔の提案で南畑公民館を会場とした農具展が開催された。市立考古館（現資料館）にとって初めての企画展示だった。

7. 渋谷長治と渋谷喜多郎

定輔の従兄弟の長治と喜多郎が村で果たした役割について、南畑公民館の公民館だより「南畑むかしむかし」の連載で、渋谷定輔の生きた同時代の農村の暮らしを回想している。

8. 晩年の定輔

定輔は昭和61（1986）年に自叙伝ともいうべき「農民哀史から60年」を公表。

昭和64（1989）年1月3日に逝去。

個人の意志により、蔵書や書簡などの資料は富士見市に寄贈された。

平成6（1994）年、市立図書館が開館し一角に「渋谷定輔文庫」が開設された。

社会運動史、文学史、生活史の貴重な資料として活用され、今後も期待されている。

引用・参考文献の紹介

質問

- ・渋谷定輔と住井すゑとの関係について
- ・小作争議のもとになった高い小作料の減免はどれくらいか